

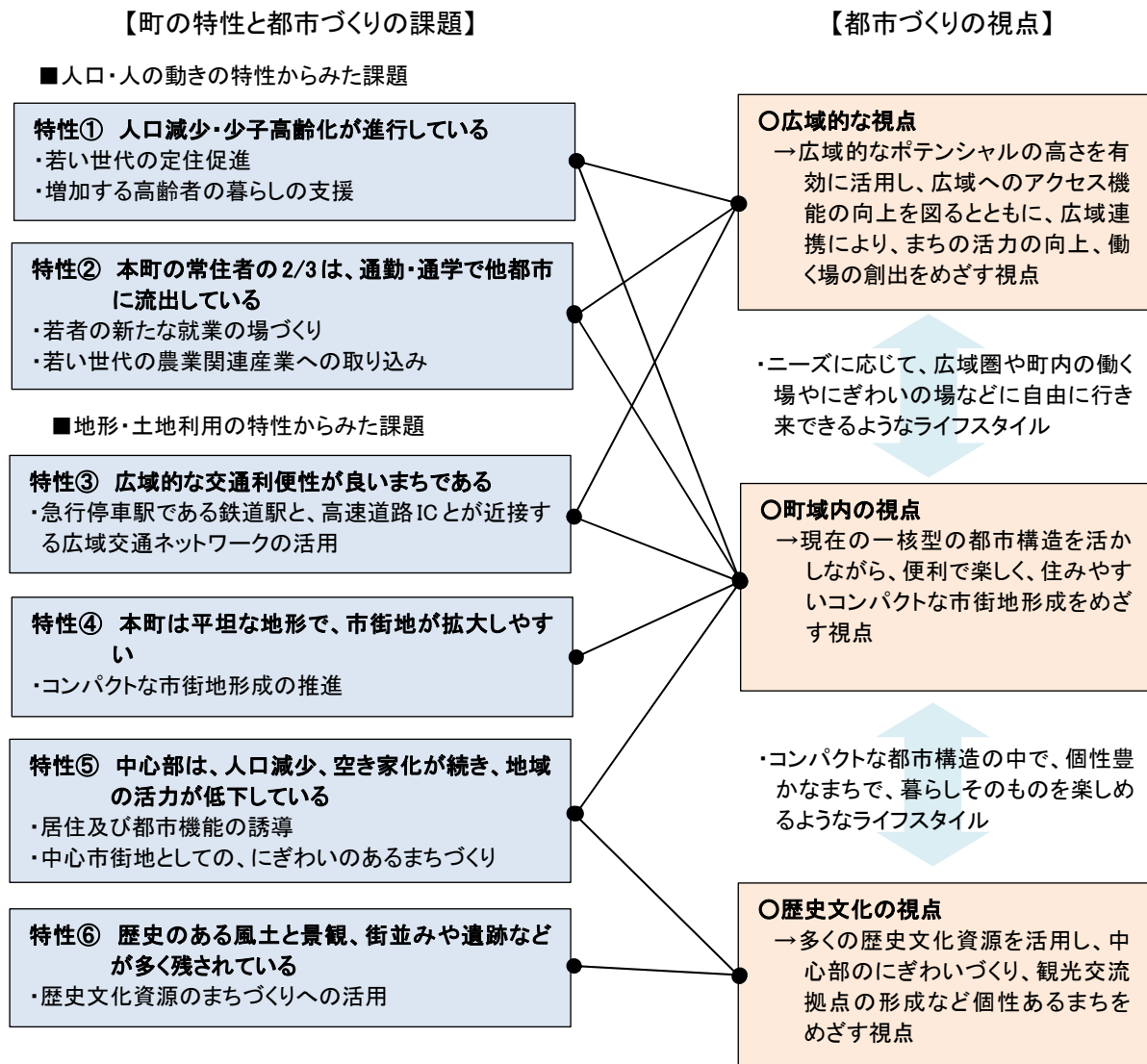
第2章 都市づくりの方針

1. 都市づくりの視点と基本目標

1-1. 都市づくりの視点

人口減少・少子高齢化の進行、働く場の不足といった課題に対応していくため、次のような視点から、都市づくりを進めていくことが必要となります。

- 広域的な視点
 - ・広域的なポテンシャルの高さを有効に活用し、広域へのアクセス機能の向上を図るとともに、広域連携により、まちの活力の向上、働く場の創出をめざす。
- 町域内の視点
 - ・現在の一核型の都市構造を活かしながら、便利で楽しく、住みやすいコンパクトな市街地形成をめざす。
- 歴史文化の視点
 - ・多くの歴史文化資源を活用し、中心部のにぎわいづくり、観光交流拠点の形成など個性あるまちをめざす。



1-2. 都市づくりの基本目標

(1) まちの将来像

まちの将来像については、上位計画である「田原本町第4次総合計画」の将来像を、本都市計画マスタープランにおける将来像とします。

【まちの将来像】

**子どもから高齢者まで 誰もがいきいきとした
暮らしを楽しむまち たわらもと**

(2) 都市づくりの基本目標

まちの将来像の実現に向けて、都市づくりの基本目標を次のように設定します。

まちの将来像	子どもから高齢者まで 誰もがいきいきとした 暮らしを楽しむまち たわらもと
--------	--



まちの将来像 の捉え方	<ul style="list-style-type: none"> ◆「子どもから高齢者まで」 →多世代が安心して暮らせる住環境の確保、都市機能の充実 ◆「誰もがいきいきとした」 →働く場の確保、にぎわいと活気のある拠点の形成 ◆「暮らしを楽しむ」 →まちの歴史文化資源を活かしたまちづくり
----------------	---



都市づくりの視点

○広域的な視点	基本目標 1 ・広域へのアクセス機能の活用により、まちの活力を高め、働く場の創出を行う
○町域内の視点	基本目標 2 ・コンパクトなまちの特性を活かし、便利で楽しく住みやすいまちづくりを行う
○歴史文化の視点	基本目標 3 ・歴史文化資源を活かした、個性豊かなまちをめざし、まちのアイデンティティを高める

2. 都市づくりの基本方針

まちの将来像「子どもから高齢者まで 誰もがいきいきとした暮らしを楽しむまち たわらもと」の実現に向けた基本目標を踏まえた都市づくりの基本方針を、本町の現状と課題を踏まえ、次のように定めます。

<都市づくりの基本方針>

基本目標	基本方針
<p><基本目標1> 広域へのアクセス機能の活用により、まちの活力を高め、働く場の創出を行う</p>	<p>◆地域の特性を活かした道路整備の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域交通網である京奈和自動車道を活かすため、ICへアクセスする道路をはじめ、町の発展に寄与する道路の整備を推進します。
	<p>◆IC周辺の整備推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IC付近の特性を活かした都市機能を集積し、商・工・流通業の活性化を図り、働く場を創出します。
<p><基本目標2> コンパクトなまちの特性を活かし、便利で楽しく住みやすいまちづくりを行う</p>	<p>◆計画的な土地利用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田原本駅周辺の中心市街地から周辺に住居系の市街地、その外側に田園地帯が広がるコンパクトな都市構造を基本として、計画的な土地利用を進めます。
	<p>◆魅力ある田原本駅周辺のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の玄関口である田原本駅周辺では、コンパクトなまちの核にふさわしい、にぎわいと活気のある魅力的な駅周辺整備を促進します。
	<p>◆居住環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、少子高齢化に対応した暮らしやすく、持続可能な地域づくりに向けた取り組みを進めていきます。
	<p>◆交通ネットワークの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が快適に町内外の移動ができるように、機能的な道路交通網の形成を図ります。
	<p>◆住民活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の住民が主体となって行うまちづくりを支援します。
	<p>◆都市防災の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・突然かつ大規模な災害の発生に対し、地域の結びつきを強め、日常的な備えがなされるように、住民や関係機関と連携し、防災体制を強化します。
<p><基本目標3> 歴史文化資源を活かした、個性豊かなまちをめざし、まちのアイデンティティを高める</p>	<p>◆歴史文化的な風土・景観の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古より今日に至る魅力ある歴史・文化的な風土・景観の継承に努めます。
	<p>◆歴史文化資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の活性化に向け、歴史文化資源の施設間連携や近隣市町村と連携したイベントの実施、PRなどにより、本町の魅力向上を図ります。

3. 将来都市フレーム

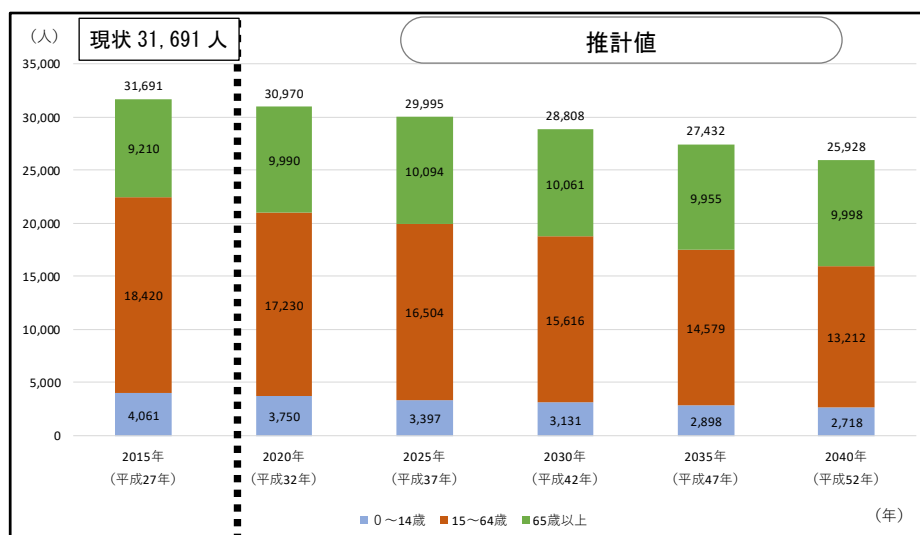
本都市計画マスタープランにおける人口フレームは、国立社会保障・人口問題研究所での推計値を踏まえ、目標年次である2028年(平成40年)では、29,000人とします。

また、概ね20年後の2035年(平成47年)では、27,500人とします。

＜人口フレーム＞

年次	人口
2015年 (平成27年)	31,691人
2028年 (平成40年)	29,000人
2035年 (平成47年)	27,500人

＜総人口の推移（実績、推計値）＞



資料：国立社会保障・人口問題研究所による日本の地域別将来推計人口（2018年（平成30年）3月）

4. 広域とのアクセス強化

（1）広域ネットワークの強化

本町の広域的なアクセス機能の良さを活かすには、整備が進む京奈和自動車道を有効に活用することが必要です。このため、三宅IC及び今後整備される（仮称）田原本ICに至るアクセス道路の整備を進めます。

（2）交通結節拠点における都市機能の充実

京奈和自動車道（仮称）田原本IC付近は、特に広域圏へのアクセスに優れた地区です。この特性を活かして、都市計画の運用により、商工業機能の集積を行い、産業の活性化や雇用の場の創出を図ります。